

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
38.文化振興事業(文化課) 浦添市の文化発信地である浦添市てだこホールを中心に、浦添市文化芸術振興事業実行委員会へ補助金を交付し、「浦添市文化芸術長期計画」の重点事業に基づき、市制40周年記念事業として下記の5事業を展開し、市民の文化芸術の振興を図った。 ●浦添市文化振興事業実行委員会補助金(17,600,000円) (1)ジャズイン浦添 平成22年7月17日(土)てだこ広場 入場者数:約350人 (2)浦添史劇～舜天王の誕生～ 平成22年6月26日(土)27日(日) 浦添市てだこホール 大ホール 入場者数:延べ1,858人 (3)第16回浦添市小中学生音楽祭 ①オーディション:平成23年1月22日(土)浦添市てだこホール 小ホール 参加者数:57人 ②小中音楽祭:平成23年2月26日(土)浦添市てだこホール 大ホール 入場者数:約700人	【成果】 ①市民・行政・有識者で構成された「浦添市文化芸術振興事業協議会」の意見を反映し、平成22年度の事業計画を作成した。 その事業計画に沿って、「浦添市文化芸術振興事業実行委員会」へ補助金を交付することにより、効率的に事業を展開し、市民の文化芸術振興と文化意識の向上発展に寄与することができた。 特に、市制40周年記念事業として行った浦添史劇～舜天王の誕生～は満場の観客を集め盛り上がった。さらに、初演となった子どもオペラワークショップは、子ども達が浦添ようどれに眠るアオリヤエを題材に70回にわたるワークショップを行い本公演はその成果を十分に発揮し、アンケート結果も大好評であった。
(4)子どもオペラワークショップ ①プレ公演「交わされた絆」 平成22年8月7日(土)・8日(日) 浦添市てだこホール 大ホール 入場者数:延べ1,234人 ②本公演「アオリヤエ」 平成22年12月18日(土)19日(日) 浦添市てだこホール 大ホール 入場者数:延べ1,843人 (5)NHKのど自慢大会 平成23年2月6日(日) 浦添市てだこホール 大ホール 入場者数:約800人 ●文化団体への補助金交付 ・浦添市文化協会(3,520,000円) ・浦添市子ども文化連盟:(960,000円) ・浦添市・台北中山区文化教育交流事業補助金 (2,278,670円)	②浦添市文化協会は11月に浦添市てだこホールを中心に文化祭や文化講演会などを開催し、文化協会の各部会からいろいろな文化芸術が市民向けに発信された。 また、こども文化連盟については、各会別のワークショップや発表、浦添市文化芸術振興事業実行委員会の事業(子どもオペラワークショップ)とタイアップするなどの取り組みも行われた。さらに、浦添市・台北中山区文化教育交流事業として、浦添市子ども文化連盟太陽樹を台北市に派遣し、両国の子ども達の文化教育交流を行った。 【課題】 平成22年度は浦添市文化芸術振興事業長期計画を点検・見直しし、新たな計画を長期計画策定委員会で作成した。今後、新しい計画に基づき文化振興の諸事業を展開していきたい。

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備 考 (成果、課題等)
39.てだこホール管理運営事業(文化課) 効果的な施設管理運営と市の文化芸術の振興を図るために、指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用した管理運営事業を行った。また、指定管理者による文化芸術事業も3公演実施された。(全館稼働率97.91% 利用件数328件 利用料収入52,585,485円)(132,975,695円)	【成果】 指定管理者制度により、経費節減や効率的な運営管理を行うことができた。また、利用者件数・利用料収入とも前年度に比べ増加した。 【課題】 民間企業による公的施設の指定管理を踏まえ、民間視点でのコスト削減、サービス向上、自主事業の充実等、指定管理者の努力と行政による指導監督の視点が引き続き必要。
40.史跡浦添城跡・登録記念物保存修理事業(文化課) 史跡浦添城跡の整備事業は4期35年の計画として実施している。第Ⅰ期事業の浦添ようどの復元整備は平成17年度で概ね終了した。現在、第Ⅱ期整備事業地区である城跡の西側から南側に遺る城壁・石畳道等の発掘調査と整備を平成18年度より進めている。 平成22年度は地質調査、ワカリジ(為朝岩)のレーザー計測、出土遺物の自然科学分析、遺構の発掘調査等を行った。(39,966,309円)	【成果】 レーザー計測によりワカリジ(為朝岩)の現状を正確に記録することができ、今後の重要な整備検討用資料が得られた。 また、自然科学分析により城壁構築の時代を推測できるデータが得られた。城壁等遺構確認の発掘調査では、外郭南地区の内郭では長さ約28mの城壁外郭では面積約3.4㎡の石畳を確認することができた。 【課題】 地質調査により石積城壁の基盤となる岩盤(琉球石灰岩)に、剥落や亀裂が確認された。城壁の復元整備に先立ち、岩盤等の対策工事を実施する必要がある。

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
41.浦添市内遺跡発掘調査事業(文化課) 市内における大規模開発に際し、文化財の有無の試掘調査及び範囲確認調査を行い、開発事業者との文化財の取り扱いに関する協議に向けての基礎資料を得るための事業である。 平成22年度は浦添南第一土地区画整理事業地内の「前田・経塚近世墓群」の範囲及び基数確認調査と、本市西海岸に計画されている臨港道路建設事業地(那覇港湾・空港整備事務所)における「石切場跡」の範囲確認調査を実施した。また、県道浦添西原線建設事業地内に所在する東空寿近世墓群の範囲確認調査を実施した。 平成14年度の発掘調査で出土した浦添ようどれの石灰岩製石厨子の保存処理を行った。(21,285,543円)	【成果】 区画整理地内の「前田・経塚近世墓群」のうち3地区において、合計155基の近世墓を確認することができた。そのほとんどが丘陵斜面に横穴を掘って造られた掘込墓であった。近世墓の範囲や基数を明確にすることによって、本市の区画整理事業を遅滞なく進めることにつながった。 西海岸の石切場跡では、調査により遺構の範囲を確認するとともに調査箇所の一部から石切跡が良好な状態で検出され、石切に伴うノミ状の工具痕も確認された。 東空寿近世墓群の範囲確認調査では97基の墓が検出された。墓のほとんどは、岩盤を掘削して横穴を掘る「堀込墓」と堀込墓に石積みを施した「亀甲墓」であった。 これらの範囲確認調査により、開発事業にかかる文化財保護の調整業務を円滑に進めることができた。 浦添ようどれ出土の石灰岩製石厨子は経年及び破損による劣化を防止するため、恒久的保存処理を行った。 【課題】 今後も本市の区画整理事業をはじめとする諸開発事業との調整業務を円滑に進め、文化財の適切な保存を図っていくことが課題。
42.うらおそい地域文化財保全整備事業(文化課) 市総合計画の「歴史がいきづく文化の薫り高いまちづくり」を推進するための事業である。 平成22年度は史跡「浦添御殿の墓」の発掘調査および復元整備に向けた実施設計を実施した。(9,564,832円)	【成果】 史跡「浦添御殿の墓」の発掘調査を行い、平成23年度の復元整備に必要となるデータを収集することができた。また、実施設計を行うことで平成23年度の復元整備工事を円滑に進める目途がついた。これらにより「歴史がいきづく文化の薫り高いまちづくり」を推進するための地歩を固めることができた。 【課題】 NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会との連携を図りつつ、文化財めぐり等における活用を推進していくことが課題である。

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
43.市立図書館運営等事業(図書館) 図書館の主な事業は次のとおりである。 ①図書館運営事業では、図書の貸出、市民の必要とする資料の収集、レファレンス(調査・研究援助)、相互貸借、移動図書館の巡回等の奉仕活動、沖縄学・郷土・移民史関係調査・研究に対する資料提供等の活動を行っている。 (70,784,818円) ②図書館管理事業では、図書館施設の維持管理を行っている。(16,955,275円) ③歴史資料(古文書・行政文書)の収集と保存活用事業では、古文書の収集と廃棄処分された行政文書を歴史資料として整理保存、活用を行っている。 (27,168円) ④浦添市移民史編集刊行事業では、浦添市民の移民・出稼ぎ・移住等について関係資料の収集等により移民・出稼ぎの実相の検証と記録保存を行なっている。(2,197,272円) ⑤図書館おはなしコーナー等整備事業では、かたりの部屋、授乳室、パーゴラを増築した。 (27,271,650円) ⑥市立図書館児童図書等整備事業(光をそそぐ交付金)では、児童図書の充実に力を注いだ。 (6,331,864円) ⑦歴史史料(古文書・行政文書)の収集と保存活用事業では、保存年限のすぎた行政文書を歴史史料として整理保存、活用を行っている。 (光をそそぐ交付金3,354,966円) (合計 126,923,013円)	【成果】 ①図書館運営事業は、図書館法に基づく事業であり、講演会や展示会等の催し物の実施及び広報活動の強化等によりその利用促進を図った結果、平成22年度は年間貸出冊数が437,668冊(点)と前年度に比べ、10,970冊(点)、率にして約2.6%の増となった。また、平成20年度に開始した、図書館コンピュータの整備により、情報へのアクセス機会が拡大され、市民の高度化・多様化するニーズに対して迅速にサービスを提供することができ、図書館利用の促進につなげることができた。さらに、平成21年度から平成23年度までの3ヶ年計画で取り組んでいるYA世代(概ね13歳から22歳)に対する読書推進活動(YA文芸賞の創設等)の実施により、YA世代の貸出冊数が前年度25,690冊(点)から28,433冊(点)、率にして約11.1%の増となり、YA世代の図書館利用の拡大につながった。 ②図書館の維持管理については、清掃や修繕等により適切な維持管理に努めた結果、図書館利用者に心地良い施設として利用いただくことができた。 ③歴史資料の収集と保存活用については、市文書課から保存年限が切れ廃棄処分となった行政文書を整理・保管し、歴史資料として保存することができた。 ④浦添市移民史編集刊行事業についてはハワイ、北米への国外調査、九州地区の県外調査により、移民・出稼ぎ等の聞き取り、資料の収集などを実施し、移民・出稼ぎ等の検証と記録保存を図ることができた。

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4) 文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
	⑤かたりの部屋が増築されたことにより防音対策ができ、読み聞かせの場として利用する方達へ今までよりも充実した環境が提供できるようになった。授乳室は、男性・女性を問わず利用することができ、子育て中の利用者が安心して図書館に来館できる環境が提供できるようになった。 ⑥市立図書館児童図書等整備事業(光を注ぐ交付金)では、約4千冊の幼児・児童関係の図書を整備した。成果として、児童図書の貸出冊数が、63,695冊から72,796冊(4～8月分の対前年度比)、率にして約14%の増加が見られた。 ⑦歴史史料として、保存年限の切れた行政文書を整理し、今後の活用を図るために図書館システムに入力を行った。 【課題】 ①引き続き、YA世代の読書の充実を図り、YA世代の読書離れの防止に努める必要がある。 併せて、おはなしコーナーの増設等により、児童室の読書環境を整備し、更に読書に親しむ機会促進を図る。このような図書館活動を継続、維持するため、図書等資料購入費も維持する必要がある。 ②図書館の管理については、開館から25年が経過し、施設の老朽化により修繕費が増加しつつあり、適切な維持管理を図り、改善するなど施設の延命に努める必要がある。特に空調設備については、老朽化が著しく、改修計画を図る必要がある。 ③歴史資料となる行政文書の保存場所と整理作業を実施する作業場の確保、換気等の空調設備の整備及び担当する専門員(アーキビスト)の確保等を図る必要がある。

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備 考 (成果、課題等)
	④移民、出稼ぎ者の高齢化に伴い、体験談の聞き取り調査が急務であり、調査体制の充実を図る必要がある。 ⑤かたりの部屋は囲炉裏を中心とした部屋になっており、読み聞かせ等で利用している。洋風の話の場合は、囲炉裏部分をフラットにする事も出来、使途によって表情が変わる部屋になっている。授乳室は母親はもちろん、個室の授乳スペースも設けているため、男性でも利用できる部屋になっており、子育て中の方でも安心して利用できる図書館になった。図書館玄関に設置したぱーごらは、藤の苗を植樹し、近い将来図書館を訪れる方々の癒しと憩いの場として期待できる。 ⑦行政資料を歴史史料として引き続き図書館システムへの入力を行う。
44.美術館運営等事業(美術館) 美術館の主な事業は次のとおりである。 ①教育普及事業は実習教室や体験教室での活動を通し美術への意識高揚と芸術活動の普及を図っている事業である。(1,308,996円) ②美術館運営事業は、自主企画展などの事業実施の嘱託学芸員任用や美術館窓口受付業務等委託などである。(17,861,736円) ③美術館管理事業は施設の維持管理を行っている事業である。(30,738,101円) ④美術品収集事業は、美術的及び資料的価値の高い作品を購入する事業である。(150,000円)	【成果】 ①教育普及活動は平成22年度紅型や沈金等6種類の教室に59名が受講した。夏休み体験教室ではパラパラBOOK等8教室、また、秋休みや企画展に伴う体験教室4教室、あわせて156名の参加があった。 ②美術館運営事業は平成22年度小規模自主企画展として収蔵品展～琉球八景・琉球交易港図屏風を中心に～を実施し絵画、漆絵、漆器等33点を展示し406名の入館者があった。 ③美術館管理事業では、施設の警備、清掃、機械設備保守管理等を委託し、利用者に心地よい施設の提供をすることができた。 ④沖縄の伝統工芸品として価値の高い藤村玲子氏の紅型8点を購入した。

教育委員会点検・評価書(平成22年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備 考 (成果、課題等)
⑤市内小中学校美術作品展事業は各小中学校と連携し、美術作品の製作・展示・鑑賞等の一連の取り組みを通して、子供たちの感性を育み、美術館事業への理解と興味を深めることを目標として実施している事業である。(175,417円) ⑥近・現代日本漆の美展事業は、漆器を中心に展示している当美術館の20周年と市制40周年を記念して明治以降から現代までの日本全国の代表的な漆芸作家の漆器の数々を市民・県民に紹介する事業である。(8,616,111円) ⑦美術作品修復・復元事業は、当館所蔵の美術作品で経年劣化等による損傷があり、早急に修復が必要な作品を年次的に修復する事業である。 (4,479,965円) (合計63,330,326円)	⑤「市内小中学校美術作品展」では、市内の小中学校から241点、特別支援学校から29点、私立中学校から6点の合計276点の応募がありそのうち合計32点を表彰した。 また、例年に引き続き基地内キャンプインザー小学校児童の作品を招待展示した。入館者も997名と大変好評であった。 ⑥近・現代日本漆の美展事業は明治から現代の全国の日本を代表する作家の素晴らしい漆器を展示した。東京国立近代美術館など国の関係機関をはじめ、石川県、香川県の美術館から約90点作品を借用した。沖縄では見る機会が少ない日本の漆器の展覧会ということもあり好評を博した。 ⑦美術作品修復・復元事業では、「黒漆水鳥螺鈿箱」等6点を修復し、今後の展示に差し支えない状態にすることができた。 【課題】 ①美術館管理事業では、開館から21年を経て施設や備品が老朽化している。特に停電時に使用する非常用電源装置や照明制御システムは早めの取替えが必要である。 ②美術作品修復・復元事業では今後も劣化等が激しく早急に修復しなければならない作品は年次的に修復する必要がある。 ③企画展では、独自性のある自主企画展に向けた計画的な調査と準備が必要である。